

土砂崩れ 空から撮影

名古屋の企業、探査機開発



飛行探査機を操縦する富田社長（右）

御嵩の現場で実証実験

災害状況を把握するのにできる装置などを搭載して役立てようと、航空機や自いる。無線操縦装置のモニターなどの部品製造会社ターを見ながら、操作できる「キャリアオ技研」（名古屋るのが特徴だ。航続時間は市中村区）が、上空から災約20分間。

害現場を撮影する小型の飛 実証実験では、同社の富田探査機を開発した。昨年 田茂社長（44）が無線操縦装置の台風15号で、大規模置を操作し、土砂崩れの上の土砂崩れが起きた御嵩町空約20分から撮影を試み次月の国道21号沿いの現場た。富田社長は「簡単な操で19日、実証実験を初めて 作で撮影ができた。今後、行った。 さらに改良を加えたい」と

同社は2008年11月、話していた。同町と産業用ロボットなど 同社は今後、作物を食環境技術の開発を目指し荒らすイノシシやサルなどで、相互連携の協定を結ぶの被害対策として、生態調査だ。同社はこれまで電動自走にも活用したいという。転車や、持ち運び可能な小型の太陽光発電パネルを開発し、町産業祭などで披露してきた。

今回開発したのは、全長約1・2メートルの小型ヘリコプター型。ハイビジョン撮影用のカメラや、上空で停止